

## 暑い季節がやってきます

気象庁によると、今夏の気温は平年より高くなると予想されています。生産性が損なわれることを防ぐために、今の時期から、飼育環境、施設及び飼養管理の改善による暑熱対策を実施することが大切です。

### ○ 暑熱対策の必要性

家畜の体温は通常、一定に保たれています。しかし、周辺環境の温度がある程度を超えると生理機能に影響が出始めます。この温度を“**臨界温度**”といい、①飼料の摂取量の減少による増体率や泌乳量の低下、②繁殖機能の低下、③細菌やウイルス感染への抵抗性（免疫力）の低下、④熱中症による死亡など、様々な形で**生産性の低下に繋がります**。

昨年の熊本市の平均気温が27℃を超えたのは7月からです。しかし、**最高気温をみると、6月には29℃を超えていたことから、家畜は既にストレスを感じ始めている**と認識し、しっかりと暑熱対策を実施しましょう。

### ○ 暑熱対策の例

#### 1 畜舎環境、施設の改善

寒冷紗等の設置。屋根裏や壁等への断熱材の設置。屋根上部への消石灰の塗布。クーリングパッドの設置。

#### 2 体感温度の低下

飼育密度の緩和。換気扇等の設置による畜体等への送風。散霧装置の設置。

#### 3 飼養管理の改善

良質で消化率の高い飼料の給与。ビタミンやミネラルの追給。

#### 4 飼料作物の適切な管理

夏枯れ等により草勢の低下が見られた場合には、必要に応じて追播や、は種直後の雑草防除等を実施。



寒冷紗等の設置



屋根上部への消石灰の塗布



クーリングパッドの設置

## 夏場の死亡牛レンダリング処理及びBSE検査対応について

家畜の死体は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）に基づき、適正に処理しなければならないことから、死亡した家畜は、死亡獣畜処理場（（株）熊本蛋白ミール公社など）に搬入し、適正な処理をお願いします。

夏場は死亡牛が腐敗しやすいため、熊本蛋白ミール公社及びBSE検査所では7～9月の3か月間について、土曜日の午後も搬入を受け付ける「夏期特別業務」で対応します。

搬入された牛が腐敗していると判断された場合には、月齢に関係なく一律に腐敗牛処理料35,500円が徴収される可能性があります。

例年、搬入される腐敗牛のうち約60～70%が夏場に発生していますので、死亡牛が生じた場合には早期の搬入をお願いします。

＜夏期特別業務期間＞：7月1日（金）～9月30日（金）

開業日	休業日
月曜日～土曜日（祝日を除く） 受付時間：午前 8：30～11：30 午後 1：00～3：00	日曜日・祝日 ※8月15日（月）は休業です

（株）熊本蛋白ミール公社 TEL：0968-26-3766

## 近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地（国）	畜種	発生日
高病原性 鳥インフルエンザ （HPAI）	H5N2	台湾	家きん	令和4年4月16日
	H5N1	フィリピン	家きん	令和4年4月12日
アフリカ豚熱 （ASF）		韓国	豚	令和4年5月26日
		タイ	豚	令和4年5月10日
		マレーシア	豚	令和4年4月7日
		ロシア	豚	令和4年5月7日

令和4年（2022年）5月31日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

